

景

報

教育研究會例會

六月二十五日午後六時より學生集會所乾室にて

府立第一高等女學校長 文學士 鈴木 博也君

の歡迎會を開き、同七時より

管家遺誠の偽作と和魂漢才説の竄入について

文學士 加藤 仁平君

の講演ありたり。

新著紹介

歐米革新教育の實際

山樹儀重 著

著者は大正六年京大哲學科(教育學專攻)卒業、二ヶ年間愛知師範に就職、更に大阪市視學として敏腕を振ひ、昨年春總選舉の際氏の郷里鳥取縣より選ばれて代議士となり今は憲政會中少壯英雋の士として衆望を擔つてゐる、今春議場で吐いた憲法論の論旨の堂々たりし事によりて氏は一段に男振りを上げたミスの道の人ば評してゐた。

著者が大阪市視學在職中歐米各國二十數ヶ國を遍歴し諸所の教育史跡、現在各所になされつゝある諸種の新施設を限なく參觀して得た一々の事柄に批判を加へて出したものが本書である。ドル

トン實驗室案、ゲーリー式經營法、プラトウーン式組織等は云はすもがな、ウィツカースドルフ中學校アボツツホルム新學校、倫理修養學校等の新學校新施設も詳細に紹介し、且批判を加へて讀者の採否に便ならしめてゐる。

アボツツホルム新學校參觀中「小高い丘を歩いてゐた時にフト私を止め、彼方で働勞働者と一緒に木枝を切りこなしてゐる數名の生徒を指して私の注意を促した。そうして、小聲で、あまり近づかぬ前に言つてゐるが、あれら労働者は實に人格下劣で知識に乏しい。生徒は彼等と一緒に仕事をして彼等を知り、如何にして彼等を御すべきかを悟り、彼等も直純な生徒の感化をうけるのである。これで人間社會が平和に向上するのであると力をこめて説明して呉れた」と紹介するにあたり、更に同校の訓育の徹底せらるに驚嘆して「本校生徒の一日の行事に寸隙もなく、そうして祈を以て始まり祈を以て終つて居ることに氣付く筈である。本校の訓練は極めて秩序的で嚴肅である。生徒は元氣旺盛で、潑刺として生氣が漲り、しかも謹嚴である。良く訓練されてゐると思ふ。それがかさいつて犢骨だけださといふのではない。彼等は麗しい音楽を樂しむ事が出来る。彼等は劇も味ふ事が出来る。かうして柔かい味のある潤のある、温い美しい感情が溢れて居る。そうして彼等の心は崇高な神に結びつけられてゐる、どこまでも深い、強い靈の閃く生活へさ導かれてゐる。レディ校長の奏でるオルガンの妙音は私の靈を醒めしめたやうな氣がした。朝に夕にかうした清い、美しい天國の聲に酔ふ事のできる生徒を羨しく思つた」とあらゆる美點を挙げ盡して羨望する所など讀者をしてユートピアの境

を逍遙せるかの感を抱かしむ。と云つて徒に歐化を崇拜するものでないドルトン實驗室案を評して、「教材の研究に至つては特に何等新味がない、……材料其者は未だ充分從來の臭味を脱してゐない。」之を要するに、私は高等小學以上の學校で兒童数が五六百位以下の學校には充分適用し得るものであり、そうした方が普通の方法よりも効果が多しと考へて居る。英國の本山、ストレッタム女學校でも十一歳以下には適用してゐない。勿論、尋常小學校二年位から適用して効果がある主張はしてゐるが私はまだ半信半疑である。」と明快に批評し去つて所謂新しかり屋の盲目的模倣を警戒してゐる。

其他ウィクリフ中學校の訓練法、ステルトンの現代學校の紹介など教育の實際家に取つて益する記事多々あれど一々紹介するの餘裕なきを恨む。

ロツクの遺跡を訪れた際土地の住職が二度迄も訪問せるにもかゝらず「遊戲の方に氣が取れてか、一向氣乗りがしないでいゝ加減の返事をして居る」に業を煮やしてか「此住職が酒容面をして、大きな煙管を啣へて土地の金持と遊んでゐて偉人を慕ふ此旅人を無愛想にあしらつてゐる氏の心根を察した時に形式化した英國ノ教に對して甚だしい反感を抱いた」と個人の罪を制度に歸するあたり、ジュネブ湖中のルソー島に盡一度行き更に夜一度行つてベンチに腰を下して瞑想に耽るあたり、フレーベルの墓前に詣で、氏の思想と生涯を廻顧して時の移るを忘れて汽車の時間に間に合はぬと運轉手に催促されて永遠の別を告げ、自動車に乗つてからも幾度も振向々々歸途につくあたり古哲を偲ぶ多感の著者の平素の心情も察せられて讀むだにゆかしい氣持がする。

多感の士なるが故に常人にては得難き幾種の珍品をカメラに收

めて來た。恩物を像るフレーベルの墓、オーバーワイスマツハの記念塔、ヘスタロツチの生家と傳へらるゝ家、ノイホフに最初に建てた家、スタンツの孤兒院の跡、ルソー島などはその尤なるものである。其他各地に於ける革新教育の實際を寫せるもの七十餘種、慌たゞし旅行中によく撮り得たと思ふ程に多數に而も好資料を收めてゐる。

只惜むらくは折角苦心して得たヘスタロツチの眞跡の寫眞が出てゐない事である。本書の如きは直ちに版を重ねる事であらう。改版の際には是非卷頭に載せてほしい。この事を特に著書に希望する。

要之に本書は實地教育に當つてゐる人に取つては又現今の歐米の新教育の實際を知らんとする人に取つては好箇の參考書たるを失はぬ。同文館から出版された「現代歐米教育大觀」と併せ讀まば讀者は一層、る所大であらう。

されど望外を許されるならば、自他共にフィロソファーとして許し、屢彼地にても論戰を交へたと稱する著者が何故に彼地に於ける教育學界の中心問題をも拉し來つて批判のメスを加へなかつたかといふ事である。「歐米革新教育の實際」と銘打つて理論を限界外に放逐したには深き意あつての事であらう。著者の私淑せるロツクは一面政治家でありながら哲學者として教育理論家として一世に名をなした。著書も今は多忙の政界に身を委れてゐるがやがてはロツクのそれの如く哲學者としても果た教育理論家としても同天の偉業をなさるゝ事と信じて疑はない。當にロツクに比しただけでは物足りない。哲人宰相バルフォーアに比肩せられやがてはブラタールの理想國も君の手によりて此の土に出現されん事を千祈萬禱する。(伊藤猷典誌す)

發行所 京都市下京區西洞院七條南 内外出版株式會社
定價 貳圓五十錢